

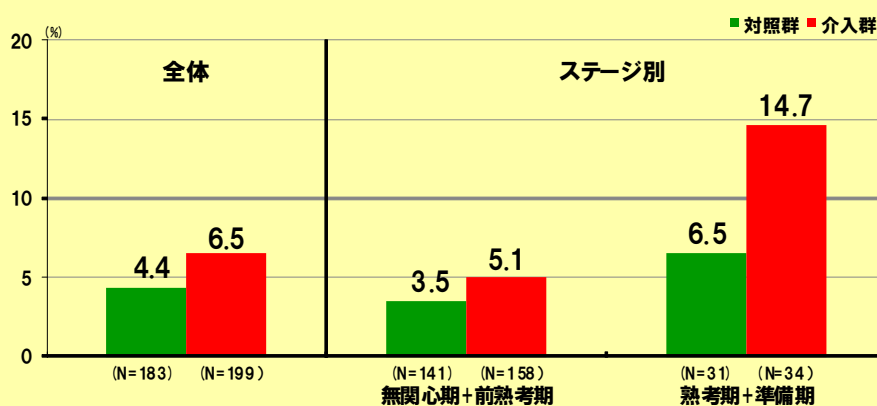
健診の場での短時間の禁煙介入で禁煙率が高まる

当センターでは、健診の場で喫煙者に対して効果的に禁煙を勧奨・支援する方法を開発し、その効果を明らかにするため、岡山県の健診機関と共同して職域を対象とした健診の場での準ランダム化比較試験による介入研究を行っています。今回、その中間結果がまとまり、平成21年9月3～4日に東京で開催された「第50回日本人間ドック学会学術大会」で発表しました。

医師から禁煙の関心度に合わせた簡易な禁煙介入を1～2分程度実施した介入群(199名)と従前と同様の指導をした対照群(183名)の間で禁煙率を比較しました。年齢、喫煙本数の影響を補正して介入の効果を調べた結果、介入群では対照群に比べて、1年後の断面禁煙率が、1.51倍高いという結果が得られました。特に、6カ月以内に禁煙を考えている熟考期・準備期の喫煙者では禁煙率が3.17倍高いという結果となりました。これらの結果はサンプル数がまだ十分でないため、有意差は得られていませんが、短時間であっても健診の場での禁煙を働きかけることにより、特に禁煙の動機の高まった喫煙者の禁煙率を高めることが示唆されました。

健診の場での短時間(1分間)の禁煙介入の効果-断面禁煙率-

- 1年後断面禁煙率 -



粗オッズ比(95%信頼区間)	1.53 (0.62-3.78)	1.45 (0.46-4.54)	2.50 (0.45-13.94)
補正オッズ比(95%信頼区間)	1.51 (0.57-3.97)	1.30 (0.40-4.19)	3.17 (0.43-23.69)

(注) 補正オッズ比は、年齢・喫煙本数で補正

(中村ら、厚生省がん研究助成金 田中班)

今回の研究において、禁煙を試みた人において禁煙治療や禁煙補助薬を使った人は全て介

